

令和7年7月15日

関係機関・団体の長 様

新潟県病虫害防除所長

新潟県病虫害発生予察情報・予報第5号の送付について

このことについて、別添のとおり発表しましたので、業務の参考としてください。

なお、この情報は、「新潟県病虫害防除所」のホームページでも閲覧できますので、適宜御活用ください。

また、次回の予報第6号（8月の発生予想）の発表日は、8月1日を予定しています。

新潟県病虫害防除所 電 話：0258-35-0867 F A X：0258-35-7445
---

令和7年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号

(7月後半の発生予想)

令和7年7月15日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稲】

葉いもち	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度1~20)	① 7月上旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② BLASTAMによるいもち病感染好適条件は、広域的な出現は少なく、断続的に一部地域で出現している。(±~－) ③ コシヒカリBLの発病抑制効果は高く維持されている。(－) ④ 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(－~±)
穂いもち	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度1~20) 時期：やや早い	① 7月上旬の葉いもち発生量は平年比やや少ない。(－) ② 水稲の出穂期は平年より早まる見込み。 ③ 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(－~±)
紋枯病	量：並 程度：少発生 (発病度1~20)	① 7月上旬の発生量は平年並。(±) ② 水稲の茎数は概ね指標値並。(±) ③ 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(＋~±)
稲こうじ病	量：やや少ない	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量は平年比やや少ないと推測される。(－) ② 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(－~±)
ニカメイチュウ	量：並 程度：少発生 (被害株率1~29) 時期：並 (第1世代発蛾最盛期8月第1半旬頃)	① 7月上旬の被害株率は平年並。(±) ② 第1世代幼虫の発生時期は平年並。 ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
セジロウンカ	量：並 程度 少発生 (最高寄生数1~25) 時期：やや早い	① 6月20日に初確認で時期は平年比6日早い。 ② 7月上旬の発生量は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ツマグロヨコバイ	量：並 程度：少発生 (最高寄生数1~25)	① 7月上旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【水稲】（つづき）

斑点米カメムシ類	量：多い	① アカスジカスミカメの7月上旬の畦畔すくい取り調査における虫数は平年比多く、確認地点率も平年比高い。（+） ② アカヒゲホソミドリカスミカメの7月上旬の畦畔すくい取り調査における虫数は平年並であるが、確認地点率は平年比やや高い。（+） ③ 向こう1か月の気温は高いと予想されている。（+）
<b>【防除上の留意事項】</b> ・ 7月10日発表の注意報第2号（斑点米カメムシ類の多発生に注意）を参照する。		
イネアオムシ （フタオビコヤガ）	量：並 程度：少発生 （最高寄生数1～5）	① 7月上旬の発生量は平年並。（±） ② 向こう1か月の気温は高く（+）、降水量はほぼ平年並（±）と予想されている。
コブノメイガ	量：並 時期：並	① 7月上旬の被害発生は未確認で発生量は平年並。（±） ② 佐渡市に設置したフェロモントラップでの誘殺は未確認。（-）

【大豆】

ウコンノメイガ	量：少ない 時期：並	① 前年の発生量は平年比少ない。（-） ② 7月上旬にまれに幼虫を確認したのみで、被害の発生量は平年比やや少ない。（-） ③ 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）
<b>【防除上の留意事項】</b> ① 幼虫の食害に伴う葉巻の発生は7月中旬頃から始まり、7月第6半旬から急増する。齢期が進んだ幼虫には防除効果が劣りやすいので防除が遅れないよう注意する。 ② 防除時期は7月第6半旬であるが、薬剤によって散布適期が異なるので、新潟県農作物病害虫雑草防除指針に基づき散布する。		
食葉性鱗翅目幼虫 （ウコンノメイガ以外）	量：並	① 7月上旬にツメクサガ等の食害が確認され、発生量は平年並。（±） ② 向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（±）

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注1：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の5段階で表記しています。

②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。

注2： 「予報の根拠」の、(+)は発生量を増加させる要因、(-)は発生量を減少させる要因、(±)はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

【新潟県農薬危被害防止運動実施期間：6月1日～8月31日】

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後7日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

【参考】北陸地方 1か月予報（7月12日から8月11日までの天候見通し）

（新潟地方気象台：令和7年7月10日発表）

### <予想される向こう1か月の天候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高い状態が続く見込みです。

太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。

2週目は、高い確率70%です。

3～4週目は、高い確率60%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
平均気温	10	20	70
降水量	40	30	30
日照時間	20	40	40

### <気温経過の各階級の確率（%）>

	低い	平年並	高い
1週目（7月12日～7月18日）	10	10	80
2週目（7月19日～7月25日）	10	20	70
3～4週目（7月26日～8月8日）	10	30	60